



出願

昨日は興梠先生と、昭和女子大学人見記念講堂で行われたセンター試験説明会に出かけてきた。関東・甲信越地区の説明会ということで、約二千人収容のホールが、ほぼ満席になっていた。

ご存じの通り、現役生のセンター試験出願は、個人が行うのではなく、各高校がまとめて行うことになっている。そこで、その手順ややり方、注意点などを再確認する上でこのような会が開かれているのである。よくニュースで、生徒から預かった願書を机の中に入れておいてすっかり出願し忘れた…といったことが報道されたりするのだが、毎年何かしらのミスがあるようで、そういう話題を提供しながら、各学校に更なる注意を促すといった意味合いもあるのだろう。

日比谷では、毎年300名以上が出願するわけで、その日程・手順はしっかり定まっているし、繰り返し点検を行うことになっているから、めったなことではミスは起こらないはずだし、現に私が在籍している15年間では、一度も学校側のミスは起こっていない。だから、安心して出願に臨んでもらって構わないと思うが、その前提として、君たち自身の出願書類への記入ミスがないようにしてもらいたいものだ。

結構笑える例としては、多分、自分で記入しないで保護者（母親？）に記入してもらったからだと思うが、

1 男子なのに性別が女になっている。

2 生年月日から計算すると46歳になる。

といった例があったので、願書は必ず自分で記入すること。特に、科目選択についても記入する箇所もあるので、しっかり記入しても

らいたい。

なお、これらの記入の注意点については、君たちにセンターの願書を渡す9月3日（月）の学年集会で説明することになるので、9月始業の日は絶対に休まないこと。その後、

- ①願書に鉛筆で下書きをし、担任に見せて確認してもらう。
- ②受験料を払い込む。
- ③払い込み用紙を添付したホンモノの願書を担任に提出する。
- ④担任がそれをまとめ、担任団で確認→進路部で確認した上で、10月1日に出願。

といった日程で進行していく。大学入試センターによって出願期間が定められているので、学校が示す日程に従ってきっちり準備を進めてほしい。特に、星陵祭の準備と併行して準備をすすめることになるので、例えば、忙しい最中に願書を手渡しされたりしても、それをすっかり置き忘れてしまったりする可能性があるため、これから示される提出の期日・場所などをしっかり守って、互いにミスが生じないように協力してほしい。

*

年末には、私立大学の願書を手に入れて出願準備をすることになる。こちらは、完全に各個人でやってもらうことになる。最近の出願書類は結構複雑だから、志望校が決まったら早めに書類を手に入れて準備をすすめるとよいだろう。

というわけで、受験には事務処理能力も問われることになる。定められた箇所に、定められた内容を正確に記入する。期日を守る。そこから受験は始まるのである。